

伊豆沼・内沼研究報告・原稿の書き方

原稿の書式

原稿本文の作成には Microsoft 社の Word などのワードプロセッサを使用してください。A4 版の用紙を用い、文字サイズは 12 ポイント、上下左右に 3cm 以上の余白を設け、1 ページ 24 行に設定し、原稿に編集者や査読者が書き込みをすることができるようにしてください。また、原稿本文には行番号(通し番)をつけてください。図表は写真や絵の場合は PNG 形式で、グラフや模式図などの場合は EPS 形式か EMF 形式が望ましいですが、画質が良いものについては手書きの図表や他のソフトウェアでつくったものでも問題ありません。ファイル形式について不安な方はご相談ください。

原稿の構成

原稿の構成は表紙、本文、図表の 3 つとしてください。

原稿のフォント

表紙と本文のフォントとして、日本語には MS P 明朝(全角)を、アルファベットと数字には Century (半角)を用いてください。図表については、上記のフォントあるいは MS P ゴシック, Arial を用いて下さい。これらのフォントをお持ちでない方は、お手元のフォントで構いませんが、特殊なフォントの使用は印刷時の文字化けなどの原因になるので、なるべく避けてください。

表紙

原稿の第 1 枚目は表紙とし、次の事項を記入してください。和文表題、著者名、論文責任者名、論文責任者の住所、電話番号、もしあれば Fax 番号、E-Mail アドレス。

本文

本文の構成は「題名および著者名」「要旨」「はじめに」「方法」「結果」「考察」(もしくは「結果および考察」)「謝辞」「引用文献」「図表の説明」としてください。この様式に該当しない論文(総説など)の「はじめに」から「考察」部分については、論旨に合わせて適切な見出しを記してください。構成について不安な方は、まずご相談ください。

1: 題名および著者名

表題、著者名、所属および住所、キーワードについて、和文と英文で記載してください(英文の書き方に不安な方は、まずご相談ください)。内容が 1 枚に収まらない場合には、複数ページにわたって記載して頂いても構いません。研究・執筆と投稿の時点で所属や住所が変更になった場合には、「現在の所属(住所)」として、研究・執筆時点での所属(住所)とは別に記してください。

2: 要旨

題名および著者名のページの、次のページに記述してください。ページの上に題名を記し、要旨を日本語で 1000 字あるいは英語で 500 単語以内(スペースを含む)で記述してください。可能であれば、日本語と英語の要旨を併記してください。

3: はじめに

要旨のページの次のページに記述してください。ここでは、研究にどのような意義があるのか、どのような目的で研究を行ったのかなどについて書いてください。もし同様な研究がすでに行われている場合は、「今までどのようなことが明らかになっていて、どのようなことがわかっていないのか」について文献を引用しながら(引用の際の記述様式は、下記参照)概説し、その研究の重要性や面白さをアピールしてください。

4:方法

野外調査の場合には、まず調査地について書いてください。生息地を公表することにより悪影響が生じる可能性がある場合については大まかな記載(例:宮城県北部)にしてください。それ以外の場合には地名と緯度経度を記述し、読者に調査地がわかるようにしてください。また調査地の環境について、読者が理解できるように記載してください。

次に調査方法について書きます。「読んだ読者が同じ調査をできる」ように記述してください。いつからいつまでどれくらいの頻度で調査を行ったのか、どのような方法や道具で調査をしたのか、わかりやすく書いてください。動物実験の倫理面について特記事項があれば、ここで記述することができます。

5:結果

調査で得られた研究結果について簡潔に書いてください。重要な調査結果については図や表で示してください。具体的なデータが重要な場合は表で示しますが、それ以外の場合はできるだけ図で示してください。それは図の方が一目でわかりやすいからです。

6:考察

結果から考えられる点について、文献資料を交えて考察してください。結果は過去形で、考察は現在形で書くとともに、何が結果(事実)で何がそれをもとにした考察なのか、読者がわかるように書いてください。なお、「3.はじめに」から「6.考察」までについては、改ページせずに続けて記述してください。

7:謝辞

考察の最終ページの、次のページに記述してください。研究に助力や助言を頂いた方への謝辞を記述してください。また、助成金を得て行った研究の場合には、助成金名などを記述してください。利益相反や著者の分担などについて特記事項があれば、ここで記述することができます。

8:引用文献

謝辞のページの、次のページに、本文や図表の説明で引用した文献にかぎり、もれなくリストしてください。本文などでの文献の引用のスタイルは、著者名(年号)あるいは(著者名 年号)とします。発表年が不明のWebページを引用する場合には、年号の代わりに「参照日-月-年」とします。可能な限り原典にあたり、孫引きをさけてください。文献の配列は著者名および発表年のアルファベット順とします。各文献は次の形式にのっとり、例にならって記載してください。1つの文献が複数行になる場合には、ぶら下げ形式(2行目以降を字下げとする)にしてください。

【形式の例】

1) 雑誌の場合: 著者名. 発表年. 論文表題. 掲載雑誌名 巻または号: ページ. DOI データ

注:1 巻の中が通しページになっておらず、号によって違っている場合には、巻とページのあいだに号数を括弧でくくって入れます。

注:2 周知の雑誌名には省略形を使用します。

注:3 可能な限り DOI データをつけてください。その形式は DOI: 記号番号(URL の場合、<http://doi.org/>につづく文字列)

嶋田哲郎. 2002. 水鳥の聖地で湿地の生き物観察. 週刊日本の天然記念物 25「オオハクチョウ」: 32-33.

Shimada, T., Hatakeyama, S., Miyabayashi, Y. & Kurechi, M. 2005. Effects of climatic conditions on the northward expansion of the wintering range of the reater White-fronted Goose in Japan. *Ornithol. Sci.* 4: 155-159. DOI: 10.2326/osj.4.155

嶋田哲郎・進東健太郎・高橋清孝・Aaron Bowman. 2005. オオクチバス急増にともなう魚類群集の変化が水鳥群集に与えた影響. *Strix* 23: 39-50.

2) 単行本の場合: 著者名. 発表年. 表題. 発行所, 発行地.

上田恵介. 1987. 一夫一妻の神話: 鳥の結婚社会学. 蒼樹書房, 東京.

3) 単行本内の一部を引用する場合: 著者名. 発行年. 表題. 編者名(編). 単行本表題, ページ数. 発行所, 発行地.

嶋田哲郎. 2006. オオクチバスが水鳥群集に与える影響. 細谷和海・高橋清孝(編). ブラックバスを退治する — シナイモツゴ郷の会からのメッセージ —, pp. 37–42. 恒星社厚生閣, 東京.

4) オンライン・ジャーナルと同等のウェブ上の pdf ファイル(発行年明記でファイルのタイムスタンプあり)の場合: 上記に準拠します. 例: http://izunuma.org/pdf/kujyo_manual_0_0.pdf の 7–11 ページ.

嶋田哲郎. 2013. 伊豆沼・内沼. 藤本泰文・嶋田哲郎・高橋清孝・斉藤憲治(編). 湖沼復元を目指すための外来魚防除・魚類復元マニュアル ~ 伊豆沼・内沼の研究事例から ~. pp. 7–11. (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団, 宮城.

5) その他の Web ページの場合: 著者名. 発行年(不明の場合にはオンラインと記す). 表題. URL (オンライン[発行年不明でオンラインと前記した場合には省略], 参照日・月・年).

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団. 2017. 伊豆沼・内沼ゼニタナゴ復元プロジェクト バス・バスターズ活動のご案内 H29. http://izunuma.org/pdf/busters_annnai_h29.pdf (オンライン, 参照 25-4-2017).

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団. (オンライン) 伊豆沼・内沼の環境問題と保全活動. <http://izunuma.org/4.html> (参照 25-4-2017).

The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation. 2014. Nature and conservation in Izunuma-Uchinuma. http://izunuma.org/pdf/izunuma_English.pdf (online, viewed 23-11-2016).

9: 図表の説明

図のタイトルや短い説明を, 図そのもの(画像)とは別にテキストで本文の後ろにまとめて付けてください. 表についてはタイトルを表の上(1 行目)に付けてください. 表に脚注をつける場合: * 説明. 脚注が複数の場合には, *1, *2 …

図表

- ・ 編集部では受理した原稿の編集を Microsoft Word で行っています.
- ・ 写真や絵の場合を除き, 図は EPS 形式や EMF 形式で作成して下さい.
- ・ これ以外の様式(PDF 形式など)の図表原稿も受け付けておりますが, 編集過程で画質が劣化しやすいため, 受理後の印刷原稿作成の際に, 上記の形式などで再提出して頂く場合があることをご了承ください. 表についても, Microsoft 社のエクセル形式で再提出して頂く場合があることをご了承ください.
- ・ 図表は編集の過程で編集部で書きかえる場合があることをご承知ください.
- ・ 図や表を用いるときには本文中で必ず引用してください. 本文中に出た順に, 図や表の番号(図 1, 図 2..., 表 1, 表 2...)を付けてください.

その他

*生物名, 単位などの記述

動植物の和名は原則として片仮名書きとし, 学名には下線を引いて, イタリック体(斜字)の指定をします. 学名は 1 回目にその種が出てきたときに書き, 2 回目以降は書きません. また同じ属名の種が続く場合は 2 回目以降の属名を省略します(例: マガン *Anser albifrons*, ヒシクイ *A. fabalis*). 計量の単位には, km, m, cm, ha, m², など CGS 単位を用います.

原稿の送付方法と部数

- メールもしくは郵便で投稿することができます。
- メールで投稿する場合、本文と図表を前述のファイル形式で作成してください。本文と図表を1つのファイルに入れる場合には、MS-Word 形式あるいは PDF 形式で投稿してください。確認のためメール本文にお送りいただいたファイル名を記入してください。
- 郵便で投稿する場合は原稿を3部作成し、うち2部を投稿し、1部を著者の手元に保存しておいてください。
- 図表は校閲時に汚れる可能性があるため、投稿時には原図のコピーをお送りください。受理された時点で原図をお送りください。

著作権

- 投稿された論文のホームページなどへの掲載、配布の権利は(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団が保有します。
- 著者は別刷りとして PDF ファイルを配布することは自由にできます。PDF ファイルをホームページ等で一般公開することについても可能としますが、状況を把握しておきたいので財団までご連絡ください。
- 論文そのもの、あるいは論文に使用した図表を他用途で使用する場合は、伊豆沼・内沼研究報告からの転載であることを明記していただければ財団の許諾は不要です。ただし、状況を把握しておきたいので財団までご連絡ください。

別刷

- 著者には PDF ファイルを差し上げますが、費用著者負担で、1論文につき50部単位で別刷りをつくることができます。

校正

- 原則として初校の校正については著者が行い、再校以降は編集者が行います。著者校正は印刷上の誤りについてだけであり、内容や図表の変更は認められません。

原稿の送り先

郵送の場合：〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味 17-2

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

メールの場合：(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団宛 (izunuma@circus.ocn.ne.jp)

なお、ご不明な点については、いつでもご相談ください。

原稿の受付および受理

論文を受付けた場合は受付状がメールもしくは葉書で送られます。原稿は論文としての体裁が整っている場合には、内容について編集者および査読者によって査読されます。論文としての体裁が整っていない場合は編集者がコメントを作成します。修正の必要がある場合には原稿の修正依頼が届きますので修正してください。論文受理の日付は編集者がその論文の掲載を認めた日とします。投稿原稿の取り扱いについては、編集委員会に一任されます。

2006年4月5日制定
2017年10月1日改訂
2018年10月13日改訂
2019年9月12日改訂